京城新聞

滿目荒凉　　翠山生

▲統監の何ひ開城行に就ての目的は果して何が爲めか又如何なる感想と趣味を齎らして來りたる乎共に茫として知るに由なきも正可に姿も見せず何に音さへする由なき母國民の手前を飾らんが爲め地方暴徒狀況視察の爲め開城……否京義線沿道に趣きたりと傳へらるゝやうれ恍けなさる御心底には夢さら無之と斷言いたし候

▲開城は申す迄もなく高麗燒の本場且つ名所舊蹟多き出英雄ならぬ市井の匹夫に至る迄も李朝五百年に於ける今昔を回想して轉た感慨の情に堪へざるもの有之候况んや天下の偉人伊藤公に於てをや思ふに例の其の錦心繡腸より溢れ出づる名什佳作の詩歌なりとも浮山に出來したることゝ被存候

▲ヘデン博士の人となりは一昨日漢城だよりに於て申し述べ置き候通り勇敢なるスカンダナビヤ人の代表者として世界より尊敬されし學術上實驗上將た其の他に於て文明社會に偉大なる貢献をなし居な爲しつゝある人物に候而して氏が去る十五日日本人俱樂部の歡迎會席上に於て試みたる一場の講話は實に有益なるものに候講話は載せて十七十八兩日の紙上に記しあり候へば爰に紹介するの必要は無之候も兎も角も其の講話は言々句々人を動かし且つ世を益するものにて加ふるに其の容貌といひ態度といひ偉人の概を宿し人をして惻々として敬服いたさせ候吾人は博士が一兩日の中に當地を去られ候ことを衷心名殘り惜しく存候

▲幾度か更迭の噂を傳へられたる現内閣は依然として天下の政權を握るにしても後日現内閣員をして滿足せしむる程の下準備なくんば將來の程何となく思ひやられ候尤も伊藤公の群豪統御に熟練なる斷じて後日の禍を醸すが如きヘマはなかるべしと誰れやらの方味返りたる言葉に候も之は大々的當なる言葉と存候

▲大阪師團長井上大將豫て危篤なりし所一昨日午前五時藥石功を奏せず溢焉として薨去せりとの報に接し候大將は山口縣の産享年五十四賦性勇邁にして機略に富み而も情誼に厚く義氣を重んじ部下を愛する恰かも嬰兒に對するが如く溫嚴並び行はれて毫も誤るなし三十七年二月日露の戰端開かるゝや小倉師團長として仁川に上陸し次で鴨綠江より遼陽に進み沙河奉天の大戰に參加して殊功を樹て歸來其の功を以て勳一等功二級に敍せられ同時に男爵を授けられ新進有爲の好將軍として一代の具瞻する所となりしに今や亡矣吁悲しい哉（十七日稿）

外國貿易旬報
（十二月上旬關稅局調査）

輸出重要品表

品名	本年分	前年同期
米	二九七、九〇四	一六四、二四一
大豆及小豆	一六二、八〇五	一八一、五七三
鮮魚乾魚鹽魚	一六、三三三	一九、一一三
牛皮	六、八七四	三、五一六
人蔘	三三九	—
綿花	九、一九九	一七三
生牛	一九、三二六	三、七五

輸入重要品表

品名	本年分	前年同期
食鹽	一一、五五一	三、三三三
砂糖及精糖	二七、九六〇	一一、八〇六
清酒	三四、四八二	三三、八一九
石油	一、三四三	二四、一二四
打綿	二〇、四八三	一四、〇三五
綿絲	四一、七九九	一〇六、三三七
生金巾及シーチング	一三三、三八五	一六九、七七五
晒金巾	七二、六七四	一七、五三六
日本木綿	五九、三〇九	四八、四七三
麻布	一二七	一四〇
絹布	四四、四〇八	四九、八八六
紙	一六、五五一	一一、三三六
石炭	三六、五六五	一五四、七七九
熟鐵	八、九二四	四六六、六〇一
煙草	三〇、三四七	七七、六九九
木材（鐵道枕木及板を除す）	一一、四二一	三、六三九
セメント及石灰	三、三九九	一、三六八
マッチ	三、九〇四	八、八九六

浮世ぐさ

●イルミネーションの始

イルミネーションは、三十三年四月三十日神戸沖にて觀艦式のありし時、夜間各艦に發光して海面を照破し、一大偉觀を添へたるに始る

其後大阪に於ける第五回勸業博覽會に於て點火したるイルミネーションの電燈數は六千七百餘燈にて一時其壯觀を賞せられしが四十年三月廿日東京上野東京勸業博覽會にて日曜大祭日の夜毎に場內建物等に點火したる數は三萬五千八十四燈に上り其點火料一夜千三百圓なりし。

●ペンキの始め

工藝志料に云、安政五年海外諸國と貿易を開く、爾ありてより以來、又或は、家屋の建築を外邦に倣ふ者あり而して塗て或は碧色と爲し或は白、茶褐、紺、青、黃淺、紅、紫色と爲す、（彩るに皆ペンキを用ひる）是に於て明治四五年頃新髮店川名浪吉が看板をぬるべンキを得る道なく海軍省より少量を乞ひ得て漸く看板一枚を塗りしとのこと又明治六年四月の（百首）に

三階や四階の樓をペンキぬら、吉野の里にふれる白雪又七年（築昌誌）に「得難かるべき良材なるを惜むらくは青ペンキもて塗抹したれば」など建築上に使ひたる記事甚だ多し

（八十七）　　河合柳葉

野は學校から歸つて令孃諸子と共に、學課の復習した後、自分の室に退らうと例の長廊下を此方へ來ると、丁度彼方から大山男爵が來たのである、例は優しい顏に微笑を浮べて必ず辭を掛けて行過ぐるのであるに今日は顏を見ながらツンと濟まして、瞥目かは知らぬけれど何となく蔑むだやうな眼色で眺められた心がするので人に拭ふことのならない恥辱を與へてれきながら、氣の毒さうな顏色をせず、しかも自分の友達と結婚さへするかと思へば腹立たしさに堪ねずも、

「大山さん、私少しれ話し申したい事がありますから、れ暇のせつ一寸れ目にかゝりたうございます。」

と、辭をかけた。

大山は蛙と立留つて、小い聲で、

「そりゃ、た人違ひぢやありませんか、御用がれ在りなさるんなら何時でもた目にはかゝりますが。」

「では、どうぞ唯今れ差支がなければ、一寸と私の室までれ出でくださいませんか。」

「可しうございます、た伺ひ致します。」

と、大山は不思議に思ひつゝ、菊野が室に行つた。室に入ると共に襖を閉め切つて、四邊を憚る低聲で、

「大山さん、私貴方に對してれ怨み申すことは澤山ありますけれど、それを今日申したところで取返しの就く理ぢやございませんゆゑ、何事も定まる約束事と諦めて、もう何にも申し上けは致しませんけれど、うの代り私を可愛想だと思ふ心がれ有んなさるなら、どうぞ黑崎の若江さんと結婚なさる事だけは、れ止め下さる理には參りませんでございませうか。」

と、例の菊野とは別人かと思はるゝまで、堅く決心したいであらう、怒る容子もなく言つた。

大山も有繋に面目なげな容子で、

「陋劣な男と定めてれ怨みなさるでせうが三年以前から樂むで居た貴女との結婚を、御前樣の御媒酌でさへ謝絕された程ですから、到底希望を達し得られない事と斷念致しましたけれど、貴女に對する私の戀は、ますます募つて如何にも堪られないです、せめて貴女なりと優しい辭でもかけて、下さるならですが、京都から歸つた後と云ふものは、何がれ氣に障つたのですか、以前と違つてれ辭さへ碌々交して下さらないゆゑ、愈よ結婚と云ふ事には望を斷つて了つたです、けれども朝夕戀うして姿を見れば又しても煩惱が起つて病氣にでもなりさうですから、思ふた戀を遂げるには此の一命も要るものかと、生命をかけて大膽な爲を致しました次第です、この事に就ては何と貴女から責められても、た詫びの辭はありません、れ腹も立つでございませうけれど切ない私の心もれ察し下すつて、どうぞ堪忍して下さい、只管れ詫び申します。」

「いゝえ、もう其事は今も申しますやうに約束事と諦めましたから、何にも申しませんゆゑ、今願つた黑崎さんとの結婚を、れ止め下さるか奈何か、其御返事を聞かしてくださいまし。」

●韓京覺帳（第八）

水浪生

●金升文事件は余の豫想以上に都合良く行きたり、宋や一進會の計畫したる以上に都合良く行きたり、今は只昨今歸任せる伊藤公が如何なる程度に於て本事件を善用せんとするか。

●三十九年七月七日、先於是我統監は韓廷及其政府に向ひ雜輩の宮中出入を禁止せんことを嚴告しなるも頑固なるを知らず而れども韓廷及政府は統監の言を無視して何等實行するところ無かりし、佛の顏も三度の譬の通り金升文事件に因りて決心したる伊藤公は自ら宮中に至りて韓皇に嚴談し遂に宮中肅淸の實行に同意せしむ、此日

宮禁令發布せらる。

●宮禁令の實施によりて韓皇は外界との連絡を失ひたり、雜輩等は宮中に出入して良からぬ企を爲すことの自由を失ひたり、韓皇喜ばず雜輩怒れるも蓋し當然なり。

●茲に於てか彼等は無智の韓民を煽動し宮禁令の實施を以て

韓皇の幽閉なり

と騷がしむ、只に韓民のみならず日頃宮中の發液に因つて生を營む外人等をして筆に口に宮禁令の不法を鳴らさしめ極力同法の撤廢を爲さしめんと試む。

●余以爲らく金升文事件が手掛となりて統監が宮中肅淸を實行せんとするに至りしは大に良し、而れども公は元來意志薄弱の人なり、若しも今日の如く韓民やら外人やらが騷ぐに於てはドンナ事のはづみにて伊藤公が屈せずとも限らず、而る場合に於て宮禁令の勵行は覺束なく宮中肅淸も丸止めとなるべし、若かず此際公の勇氣を鼓舞するが爲めに大に公が景氣を付けんにはと。

●七月九日、余が統監鼓舞の一法として案出したるは公に向つて宮中肅淸に關し

頌德文を呈すること

となり、頌德文素より兒戯に均しく大抵の人なら何れも笑つて受くるものにあらず、而れども我伊藤公は別人なり、彼の虛榮心は常に頌德文に渴す況んや今の時に於て韓人よりの頌德文は彼にとつては願つてもなきものなり、余此日宋秉畯を私宅に招き語るに頌德文の事を以てす彼直ちに諾し更に余に其草按を求む、余乃ち邦文を以て草按を作り一進會評議員長廉仲模（今の内部衞生局長）をして漢譯せしめ立派なる朝鮮奉書に認めさせ桐の小函に納め黑天鵞絨の風呂敷に包ませたり。

●斯る準備の出來たる時にも宋秉畯は伊藤公が此頌德文を受取るべきや否やに就ては何心配の念を絶たず、依つて余は彼を村田少將の許に送り請ふに頌德文の内意及び統監の内意を聞かんことを以てせしむ、宋歸り報じて曰く少將よりの左右は明日判る筈なりと。

●七月十日、村田少將は伊藤公の内意が頌德文を受取るにあるを告げられたり、依つて余は宋秉畯をして一進會より三名の訪問委員を出さしめ此三人をして頌德文を統監邸に送達せしむ左は頌德文の邦譯なり（原文は漢文）

敬啓、伏して惟るに我韓國の貴國に於ける一葦相望み輔車唇齒の勢あり、即ち斷じて對岸の火光を以て尋常看過すべからず、故に施政改善の忠告有る所以なり、是れ寔に大東全局を維持するの遠圖深謀にして、具眼有志的一般人士は、孰か明目張膽して、其緒に就くを翹企せざらむや、一進會團体風霜を衝破し險夷を避けず、特に四大綱領を舉げて屢々我政府に勸告する、茲に三年、尚ほ一事半籌の改善起色なきもの、實に奸細の蠹、宵小の類闔進濟雜するに依り、紛然として密邇の地に側ち、架空起閣疑雲萬疊、捕風捉影、謬說明興して晝夜なす處、罔上誣奏的ならざるはなし、聖聰を眩惑し善隣を齟齬し百弊層生、駸々として之を施措するものなく、寔に浮雲の太陽を蔽ふに由るなり。飲んで継ふ、我大皇帝陛下、明月日と倂び閣下の定見方針は、我政府の代籌より出て宮禁肅淸の方策を敷衍奏陛し、弘猷を嘉納して、之を實施せしめたり、皇師陛下文武英明、迥かに尋常より出る萬々にして、閣下の高明、齋會を淩駕し、之を行ふ未だ幾日ならずして宮禁肅然、朝綱方に舉り、百度維れ新なるは、日を指して觀る可きなり、我韓の日に文明に趍くや東洋全局の維持皆に此に基く也、我皇帝陛下淵燭弘量、率土の民も驩戴せざるなく、閣下の献猷輸忠、有志者の讃頌する處、継ふに我團体百萬人の確認する所にして、今此の施措は洵に皇室を尊重するに出るなり、曲學膠泥の人士の若きに至ては、設し横議あるも誠に齒牙に掛くるに足る者なき也、玆に丹衷を將て頂禮鳴謝す、維に統亮を希ふ。

光武十年七月　日
大韓一進會々長　李容九
外會員百萬人

統監侯爵
伊藤博文閣下

▲韓太子の鴨獵

東京電報

天皇陛下には韓國皇太子のため二十日新濱御獵場にて鴨獵仰付けられたり（十七日發）

雜報

●韓國拓殖談

宇佐川中將は語りて曰く東洋拓殖會社第一の目的は韓國の富源を開發して韓國經濟の獨立を助長するにあり故に單に日本人の利益を得んとする主意にあらざる事は殊に注意すべき要點なり第二は平和的經濟發展の爲殊に必要なるは日韓兩國人の融和親愛にあり然るに日本人中には朝鮮に於て如何はしき行動なきにしもあらず且朝鮮人は猜疑心深く恩に馴れ易し是等は注意を要すべき所なり本來日韓兩國人の關係は豐臣德川二時代を除くの外は極めて親密融和の關係なりしなりされば移住民撰擇の方法も一に前述の趣意に協はしめざる可からず世間既に會社事業の順序確定せるが如くいふものあるも會社は未だ第一の總會もなく又總裁以下役員の任命も未定なれば從つて其の事業の順序は元より確定すべき筈なしさりながら何人が局にあるも（第一）荒蕪地開拓の爲堤防河川の築造灌漑等は容易ならざる事業にして僅少の資本にて其の目的を達すべくもあらず（第二）目下朝鮮には文明的交通機關と見るべきものは僅に鐵道と電信のみされば各道内地の諸方面に交通機關の全備を期せんこと必要なり然れども之を會社事業としては無理なりかゝる大事業は日韓政府共同の施設經營に屬せざる可からず會社又間接に之が補助たるに過ぎざらん（第三）韓國の出資たる土地は八道に亙るべきものか又は一定せる特處に限るべきか是等は實際問題として會社創立後當局者の研究すべき所なり其の他會社は京城に置くべく金融準備より株券の交付等種々の準備を要す何れ來春五月第一回總會迄には總て世に發表すべし云々

●地方稅新賦課

韓國内地の各官廳に於ては從來經費の少なかりし爲め凡ての施設兎角緩慢に流れて行政の支障を來たすこと甚だしかりしを以て今般内部及度支部と協議の上新たに地方稅の賦課を爲す筈なりといへり

●社寺財產管理規則

既報の如く内部に於ては内地の例に則り社寺財產管理を明白にし其の離散を防ぐ方針にて規則の制定に關する調査中なりしが略終了したるを以て近日開かるべき同部法令審査會に討議せらるゝ筈なり

●豫算と各省の請求額

昨紙報道せし後更に聞く所に依れば昨年度の豫算は各部より請求したる總高約五百萬圓の超過なる由傳ふるものありと雖歲入二千萬圓强に對する一千萬圓弱の超過にして實に尨大なる額を示したることとなるが元來日本の豫算は一應の總高を定めたる後之れを各省に分配し爰に始めて精細の豫算を編製することなれども韓國に於ては最初より自己の思ふが儘に豫算の編製を爲すことなれば勢ひ尨大に流るゝの弊あり依て過日の參與官會議に於ても之れが大削減を試み度支部にても目下査定に急ぎつゝあることなるが昨年度よりは結局百万圓位の增額を見るに至るべしと云ふ

●博覽會開設見合

明年度豫算を以て要求したる各部新計畫の大部分は削除せられたる結果明年度開設せらるゝ計畫なりし勸業博覽會に要する明年度割の經費も削除せられたる趣きにて當分見合せとなるべしと

●巴運河不成功說

巴里來電に據ればパナマ運河の技師ブナウヴアリルラ氏は現在米國の運河開鑿工事計畫はガタム堤防の不堅固なる爲失敗する事疑ひなしと思考せり

●滿鐵の新課長

滿鐵會社改革の結果新に任命せられる各部課長左の如し

庶務課長　秘書役　沼田政次郎
用度課長　調査役　山本信
會計課長　同　安田鏈藏
調査課長　同　川村鉚次郎
運輸課長　理事　犬塚信太郎
工業課長　調査役　朝倉傳次郎
地方課長　同　茂倉敬孝
工務課長　技師　堀三之助

尙電氣作業場長には粕谷技師、瓦斯作業場長には島技師任命せらるゝ筈なるも目下洋行中につき當分沼田庶務課長が埠頭及び[illegible]港事務所長と共に之を兼務する由

●民團合併反對上申（二）

如上の口實が果して我龍山民團を別に獨立せしめたる當初の理由を打消すに足るの價値あるや否やは姑く別の問題として假に財政の事に就て一言せん然り我龍山民團の歲入金額が京城民團の四分の一に及ばざるは事實也吾等は敢て此事實を隱蔽せんとはせず我龍山民團の歲入の小額なるは居留地の發展日淺く在留人員少數なればなり本年度に於ける實收成績の京城民團に比して稍々劣れるものあるは滯納處分の寬嚴にも由るべし經濟界の事情にも由るべし理事者の手腕如何にも由るべし直に之を以て居留民の負擔力をトせんとし民團財政の不健全なることを證明せんとするに至つては遂に之を服すべからず試に兩民團の財政に就き兩居留民の一戶若くは一人負擔の平均額を對照するに於て吾等は我龍山居留民が京城居留民に比して遙かに幸福の狀態にある事を立證し得べし別表統計の示す處に依れば本年度に於て京城居留民の一戶負擔額平均二十五圓十八錢なるに龍山居留民の一戶負擔額は二十圓弱に過ぎず更に一人別負擔額に就て見れば京城は平均九圓三十錢龍山は七圓廿錢を示せり現今の狀態を以てして尙我龍山居留民は京城居留民に比し一戶に就き五圓十八錢一人に就て二圓十錢の負擔力に餘裕あることを示せり全体の歲入京城に比して少額なりとするに龍山民團は幸に京城民團の如き多額の負擔を有せず何人が我龍山民團の財政を目して不健全なりと云ふや吾等は現在事實に徵し且つ必然到來すべき將來の發展力を豫想して毫も我龍山民團の財政の現在並に將來を悲觀すべき理由を發見し得ざる也學校道路病院等の設備に於て他の自治体又は民團に比して遜色あるは吾等も夙に自覺する處なりと雖も此等は總て臨時の費目に屬す經常歲入に依賴して一時に完整を豫期すべき性質のものにあらず龍山民團が本年度に於て着手すべき學校道路の設備を完ふする能はざりしは一に借款の不成立に原因せり借款の不成立は全く財界の不況に基く一時的影響に過ぎず民團財政の不健全若くは不信用等に原因せざる也兎も角も我龍山民團は京城民團の四分の一に及ばざる歲入を以て居留地の生存に於て止むを得ざる歲出を辨し未だ嘗て他の隣邦に依賴したることあらざる也小學校の設備の如き假令亞鉛板葺校舍たるを免れずとするも嘗て就學兒童の一人をも之を拒絕したることあらず聘するに相當資格ある敎員を以てし設備の不整頓なるに代ふるに精神的敎育の實果を收得せんことを期せり爾三年前より居留民の急激なる增加に應じ一人の不就學生をも出さゞらんか爲めには民團當局者として少からざる苦心を費せり我龍山小學校は未だ民團區域の内外を以て兒童の就學に制限を設けたることあらず南坡梨太院は京城民團の區域に屬すれども我龍山學校は常に南坡梨太院の兒童を收容せり鷺梁津永登浦水色等は我龍山民團の區域外にあり然れども我龍山小學校は常に鷺梁津永登浦水色等に住する居留民の兒童を收容せり既に民團區域外の兒童にして我龍山小學校に通學するもの五十餘名に及ぶ本年度に於ける我民團の敎育費は壹萬二千四圓歲入金額の四分の一に當る我民團の敎育事業に對する熱情の程度に於て必ずしも人後に落ちざることを確信す（未完）

●へ博士滯京彙報

△統監との會見光景　博士は一昨日午後三時より巨智部堀の兩氏と共に統監邸を訪問せしが伊藤統監は村田、外波の兩武官及古谷秘書官を從へて會見し統監が嘗て瑞典の主府ストツクホルムに遊びたる際の談話を始めとし地理風俗等重に學問上のことにて快談を盡して退邸せしは五時なりし△虎肉料理　一昨夕明石憲兵隊長の主催に係る日本人俱樂部の晩餐會は既報の陪賓にて少人數のことなれば互に打解けて快談せり村田外波兩氏の如き先年瑞典に遊びたる時の懷舊談など興味津々として盡きざりき江原道憲兵隊の手に入りし虎肉を料理て供したるより一入の快興を添へ十一時過散會したり▲統監の寫眞　伊藤統監は一昨日博士に會見の際寫眞を贈與せられたり▲商品陳列館見物　博士は昨日十一時頃農商工部の商品陳列館を見物し夫れより歸宿畫類及書翰等の整理に從事したり▲博士は十九日午後五時韓國重なる官民の乞により鐘路なる青年會館に於て講演をなし廿一日韓國皇帝に謁見し廿二日午後一時仁川發博多丸にて大連に向ふ筈なり

●郡守の資格審査

地方各道より内部に向け郡守新任者の候補者を推擧し來りたるもの數名あり近日此れに對する資格審査會を開催する筈なり

●郡の廢合

從來韓國の郡區は大小區々にして郡行政上非常の不便を見たるを以て内部地方局に於ては之れが廢合を爲す可く既に着手し地方も十三四に及びたる由なるが今後も尚は交通上及び人情風俗を參酌して大いに改善の途を講ずる筈なりといふ

●水產技術官會議（第四日）

十八日は午前十時より開會一昨日に引續き午前中各委員會を開き殘部の問題を調査し午後各委員會の決議を本會に報告して審議する所あり午後五時散會せり

●へ博士に章勳贈與

宮内府にてはへ博士の入京を機とし勳一等八卦章を贈與する筈なりと云ふ

●露國皇帝の命名日

本日は露國皇帝ニコラス陛下の命名日に相當するを以て正午伊藤統監は村田外波兩武官古谷國分兩秘書官を從へ露國總領事に敬意を表せらるべし

●米領事の招宴

二十一日午後七時より米國總領事サモンス氏は伊藤統監を主賓とし晩餐會を催さるゝ由にて夫々案内を發せられたり

●請願巡查規則發布

既報巡查配置請願規則は昨日の官報を以て發布せられたり

●和淸洋行の解散

淸津會寧鏡城間の輕便鐵道を經營せる和淸洋行は行員中不正行爲をなすものありて事業の經營失敗を來し昨年十二月より本年三月迄に七千圓の損失を生じ爾來紛擾を重ねつゝありしが今回愈同行を解散して更に以前の資本家の重なる人々の手によりて右鐵道を經營することゝなれり

●礦業許可

十二月三日より十月迄の許可は左の如し

▲鐵鑛　五〇、五六七坪平安南道价川郡内西面龍山旭町大畑角之助▲黑鉛　一五八七、二九二坪忠淸北道青山郡北面忠淸北道永同郡永同河村芳輔▲石炭　九八四、二七〇坪慶尙北道善山郡龜大面龍山櫻町梅尾圓八老松町原田虎吉京城明治町三丁目梶原三次郎▲黑鉛　八四三、九〇五坪全羅南道莞島郡智島釜山港西町二丁目六福山万作大阪市南區竹屋町小根福三郎同上山根林之助長崎縣下縣郡嚴原久田道町川村彌平▲金鑛五二、六二六坪京畿道開城郡北西面京城西大門外竹添町森下茂豐▲鐵鑛一二〇、二五〇坪黃海道海州郡青山面京城南部竹洞五九ノ四朴之陽同北山林洞七七ノ九崔雲鶴同竹洞五五ノ四朴奉允▲鐵鑛二三、六七五坪黃海道黃州郡淸源面鎭南浦龍井町三西崎鶴太郎▲鐵鑛一四〇、〇〇八坪黃海道黃州郡松林坊釜山港辨天町三ノ二寺尾政篤

●英人の大豆研究

滿洲の重要物產たる大豆の輸出販路は主として日滿兩國に於て豆油、豆粕若くは豆腐の原料として需用を有するに止まり未だ曾て歐洲商人の注意を喚起せらるゝことなかりしに兩三月以前より三井物產の手を經て滿洲大豆一萬俵、二萬俵等の大規模の輸出倫敦に向つて行はれ九旬内外の短時日に早くも五万俵以上の大輸出を見るに至れり今突然に斯の如き現象の起れる原因といふを聞くに英人間には晩近大豆の滋養性分に關し細密なる研究行はれ滿洲大豆より食用及び器械用の豆油を搾取し後更に其の豆粕を以て家畜の飼料を造るに利あることを發見し爲に滿洲大豆の輸出を見るに至りしものにして三井物產倫敦支店が其の輸入元なるも本邦にては同じく神戸支店米穀肥料部長遠藤大二郎氏主として輸出の衝に當り居れりと云ふ

●へ博士の逸事（瑞典に於ける）

へ博士の西藏探險の壯擧に就ては有力なる後援者ある由にて殊に同國皇室を始め同國一流の資產家なるノーブル家の贊助を受け居れるが今瑞典通の語る所に依ればこのノーブル家に關して隨分面白き逸話のあるといふことである、彼の爆發藥として有名なるナイトルダツセリンの發明はこのノーブル家當主の先代となり而して其の長子はダイナマイトの發明家で二子は露國裏海附近のバグーと云ふ處に於て石油の井戸を堀ることを發見し三子は綿火藥を發明し四子はダイナマイト製造中誤つて之れに觸れ遂ひに早世せられたそうである如斯ノーブル家は破壞的の發明或は發見に依つて巨大の富を造つたのであるから主人ノーブル氏は常に之れが反對として平和又は無事を好愛してゐた處で其のノーブル氏の臨終の遺言は面白い（未完）

●大連の昨今

大連歸客談に曰く滿鐵の上海聯絡航路は非常の盛況にて乘客常に滿員の有樣なり此聯絡により從來大坂より來れる雜貨にして上海より供給せらるゝの傾向を生せり滿洲大豆は從來營口に於ける販路のみなりしに最近歐州向輸出盛況を呈するに至りしかば米國領事の如きは館員を當業者間に派して市況の高低を觀測せしめつゝあり上海の支那商の松花江黑龍江交通の目的を以て二百万圓資本の一大汽船會社を設立しつゝありと

●驛屯土小作料調定額

平壤財務監督局管内にれける本年十一月末日までの驛屯土小作料調定額は左表の如くにして調定未了のもの尙多くこれあるよし而して其の物品にて徵稅の分は各郡に於て公賣に附すとの事なり

	現金	籾其他雜穀
平安南道	二一、五六四圓	四、七三八石
平安北道	二一、八〇一	三二一
黃海道	一八、七一六	三〇、三七〇
通計	六二、〇八一	三五、四二九

●保稅倉庫新築擴張

平壤保稅倉庫の新築は鑛業所の隣接地に約四五萬圓の豫算を以て新築する事にて今回いよ〱其の指定地を確定し來春早々之が新築工事に着手し竣功の上は同時に保稅品制限撤廢につき其事務を擴張すべき都合なりと

●龍山本願寺の說敎

本日午後七時より龍山本願寺に於て伊藤開敎師の說敎ある由

●松井氏に紀念品

釜山民會の決議に依り理事官松井茂氏在任中の功勞に酬ゆる爲め金盃に感謝狀を添へて贈呈する筈なるが右は一兩月中に菜屋助役之れを携帶し上京する筈なりと

●氏野檢事着任

釜山地方裁判所檢事に任ぜられたる前大邱理事官氏野德太郎氏は十六日着任し諸官廳、民團役所、新聞社等を歷訪し新任の挨拶をなしたりと

●辭令

十七日附

任統監府屬（五級俸）地方部在勤　今村武志
法部事務官　松村新太郎
敍奏任官二等　檢事　伊藤德須
敍奏任官三等　判事　伊東淳吉



●盗難に罹らぬ要心

▲防禦は妻君の心掛け一つ……　昨今警察署に集まる盗難屆は日々夥數通の多きに上るそうだから少し其要心を述べやう別段新しい事ではないが是丈の事に注意すれば大概は其害を免れる事が出來る

▲泥棒の這入る時刻　は大概夕方の食事時分と深更の二時三時の間で夕方忍び込むのは多く搔浚いの稚進んだ奴で多くは韓人で此も黄昏まつてから雨戸を閉る程の事もなく未だ戸を開けながら家内一所に集つて話をして食事をやつてゐる隙を狙つて這入る されば區域は重に玄關位までで手早く夫等の洋傘外套帽子靴敷皮などを手當り次第に搔浚つて逃げる深更に忍び込む奴はもう專門の奴で中には日本から態々移入に來て居るのがある宵の口は近所の芝居か寄席かなんかで呑んで居つて口が寂いと稱してそろ〳〵目的の家を歩いて目星い場所を探す

▲泥棒の這入る場所　は今の處では重に雨戸を鑿で捻ち明けて這入るので家によつては雨戸と雨戸との間に釘を通して置くもあるが泥棒樣は一向平氣で矢張捻ぢ明けると雨戸が全部撓つた壹弓形に曲つて下間が開くから敷居と雨戸との間に隙間が開いて其處から這入るのだから一番安全なのは雨戸一枚々々に敷居に釘を通す様にして置くに限る其外明り窓や便所から忍び込むのもある

▲搔浚ひと明巣狙　の中には年の暮を當て込んで急に開業する素人もある、是が最も恐るべき者で重に市中で盛に賃出しの商店などに二人連で出懸けて一人が色々番頭を捕へて品物を見てゐる隙に他の一人が搔浚つて逃げ出す、その中で一番彼等の狙つてゐるのは呉服屋の店頭に吊してある半襟や帶地で是が一番金になる相だ、だから商店などでは十分注意して誰か一人は專門に容子をして見張りをしてゐる必要がある、明巣狙ひは家人がゐないと見ると這入り込むので行先を聞き合せてから這入り込むので實に仕末が惡い、話が立戻るが同じ竊盜に目指される家にも

▲泥棒の嫌ひな家　がある犬の居る家は先づ其第一であるが其次には子供や老人の居る家は眼を覺す事が早いので何うも氣難ひ相だ、夫から雨戸と硝子障子との重なつてゐる家と二階に貴重品の置いてある家なども彼等の難物で大概斷念する相だ假令其家へ忍び込んでも中に

▲品物の取れぬ家　がある相だそれは細君の心懸けがよくて道具が一つ〳〵整然と片付いてゐると質に取るに困る相だ自分でも評は判らぬが何となく氣が咎めて何うしても手が出せないと云ふ話であるが中には色々自慢しい者がありながら遂には衣類に怖くなつて一物も取らず　逃げ出した盜さへある相だ世の中は總て妻君の心掛け一つである夫から今一つ注意すべきは近處に泥棒が這入り懸けて失敗した時は其後數日間は色々手を代へて附近を荒さうと懸るから此時餘程警戒せねばならぬ。

……頭まで騷がしたる揚句イザ勘定となつて揃ひも揃つて鐚一文も持合はさゞるにぞ遂に西部警察署へ突出されたるが此奴は龍山錦町内田乙吉外二名の横着物なり

●ヘソ子の戀成就　六十日餘り旭町某韓人の家庭教師たりしいとも誤面相の醜惡極まる中村タキは今日此頃龍山は伯父の家なる二階に籠り砲窓寒月を眺めては人知れぬ涙の袖を濡らし明け暮れ已が行末を思案の胸に手をあてゝ公園の淋しさに天を恨み世を果敢なみさては生み落したる父母にまで愚痴な文句を書きならべ國元に寄越すといふ始末なるが見捨る神もあれば拾ふ佛もたます世の習ひ爰に鐵道局の各驛時計見張りの山田某なる月給十九圓の男あり此の男月給見き處より好きな色戀叶ふ筈はなく遙に桃山遊廓を眺めては『あゝ金が欲しい』と痛くも此世に望みを失ひ居りたるが或夜山田が常々信仰するキリストは枕上に立ち『これ山田よ、汝の願を容れて爰龍山監獄署看守長宅に居る俗稱ヘソ子なる女と關係すべく許認す』との宣ありたり其のヘソ子といふが即ち中村キタにてヘソ子では近頃附近の井戸端會議の議決に由るものにして誤面相全く臍の如し其故で山田の嬉ぶこと恰も天に昇る心地して足もボク〳〵いと輕く歩を運びヘソ子の宅を訪れたり、ヘソ子は山田の來意を聞くや吃驚して嬉び『妾しや死んでも貴郎の妻ですよ』と當世流行のチヤンカラ式なる握手を固く取り交はし俗は別れにのぞみヘソ子言を添ねて『伯父の眼、又は他の人々の前も憚る處あれば妾し貴郎の御宅を訪ひますわ』斯くて其れ以來早いや光陰去つて二個月なるも鴛鴦の夢やいとあたゝかく時々金釵枕に觸れて聲靜かなりとは願望叶ふて御兩人萬歳

●行衛不明の邦人　德島縣那賀郡鷲敷村石川政吉(二)は本年一月八日咸鏡南道三水郡仁遮堡附近にて暴徒に遭遇し行衛不明となりたるが終に暴徒に殺害せられ又京都府加佐郡西大浦村字大丹生西田嘉吉、黑須慶助と共に電線修理の爲め三水郡新加乙波鎭附近にて暴徒に遭遇し同しく殺害せられたり

●横着なる大工　龍山新明町二番地平原正太夫と云へる大工は去月廿七日仁川濱町二丁目大工職山下爲藏を京城に連れ出し西部青坡板橋工場にて使用し居たりしが十日餘の賃銀を支拂はざるのみか其上爲藏所持の大工道具一式を騙取せしに依り此程爲藏より告訴されたり

▼文章は不斷着に限る▲

西洋では許嫁の人に日に必ず二度づゝ手紙を送つてそれが何年間續いたといふ話がある、斯樣なことは日本人では殆ど想像がつかぬ、日本人は必しも情に薄いといふ譯ではない日本の文体では筆を執るのは中々臆劫である『今日は何處に行つたが非常に暑かつたよ』と書くならば、書くにも雜作なく又情がうつる、所が之を『御座候』体で書くとか『まゐらせ候』体で書かうとすれば中々骨が折れて思ふた半分も情がうつらない、從つて日本人は筆無性になる、頭も無性になる、西洋では特別な場合の外人から誘はれて他に出掛る場合に、サア行かうと立上れば行きながら帽子を冠る、ステツキを取る、すん〳〵出掛ける、日本人では『一寸待つてくれ、羽織を着かへよう』といふてとになる、文章もまた此通りで西洋には他處行きの文章はない、文體は時代の要求に應じて簡易にやらねばならぬ

●火災二件　龍山西湖玄石里李善良所有に係る薪一万千本は一昨夜燒失したるが原因は多分水夫等の焚火ならんと云ふ▲昨朝午前七時西部盤松坊飯商洪熙祥方の炊事場より發火し大事に至らんとせしを附近の人々駈け付けて消止めたりとは險呑

●金は拂はぬ魂膽　蓬萊町二丁目二番地馬車挽入江永吉(三)は西部藥峴居住李春三(三)より八十圓にて馬車を買受け内金六十五圓を支拂ひたる外殘金は種々の口實を設け處置をつけざる處より一昨日李より西部署へ訴へられたるが入江は嚴重なる說諭をうけたり

●三人組の無錢飲食　一昨日午後一時頃當地大平町初音亭に上り込んだ三人の職人体の男あり酒よ肴よと種々注文して同六時

●待合月の家の開業　今度本町五丁目二十八番戶へ月の家と稱する意氣な待合を開業せり客扱は至極く便利且つ丁寧なる由

●昨今の民間諸屆　十八日京城民團にて取扱たる諸屆は居留屆三十件轉居屆六件退去屆二件出産屆一件建築屆七件なり

●本町座の替り　闘三十郎一座今夜の替り狂言は前替錄新皿屋敷、切り左り甚五郎にして重なる役割左の如し

肴屋宗五郎、左り甚五郎(飯太郎)愛妾おつた、甚五郎女房(八百升)浦部門三郎(卯多四郎)召使おなぎ、京人形(飯一郎)岩上典藏(荒笑)岩上吾太夫(笑幸)磯部主計之助、魚屋三吉(竹三郎)肴屋太平、浦部重左衛門(三十郎)

●現れたり花魁四名　新町遊廓尚月樓に一昨夜より初見せの娼妓貰人は神奈川縣平民沼尾たみ(三)の藝名幾代新潟縣平民澤崎けん(三)の薫橫濱市生れ松浦はつ(三)の吉野同市石原うた(三)の文之助の四名何れも娼妓の前職を有するものなるが愛嬌あつて中々小奇麗なりと

●帝土に勸題雪中の松　明治町一丁目名り德商店に於ては先頃注文せし勸題に因める新柄此程東京より澤山着荷せり重なる品としては婦人用の帶上げ半衿等ありて歲暮品又は新年用さしては好適なるべし値段は何れも一圓より三圓位まで

●江戸松の蛤鍋　新町皆春樓隣りの江戸松は元伊藤統監、副統監などの料理人として隨分名を賣り出してゐた丈けあつて西洋料理は勿論十八番のハマ鍋頗る賞味すべく新町歸りに一寸パイ一も妙

●革新演劇の來韓

……半島演壇の一變遷……

舞臺を退ひてマチージヤとなつた川上音次郎は一昨日突然京城に來り伊藤統監、松井警務局長、各新聞社等を歷訪し昨夜コツソと歸朝した、記者は同人を訪ふて一夕の談話を交換した渡韓の用向は同人の組織せる革新劇興行に關し劇場の視察であるが何樣京城の劇場では第一持參する書割、其他背景が寸法に合はぬ舞臺の奧行が狹まくて完全に見せることが出來ぬ、見物を五百や六百收容するに足る位ひでは到底算盤球に掛からぬ、是等の欠點でドウヤラ不の字に成りそうだつたが其處は川上だ、釜山と仁川を打てば千人内外を容れるに足る可き劇場もあり且つは無趣味極まる新開地の同胞に眼新らしき者を見せて女と酒ばかりに耽けつて居る人士を覺醒せしむるも國家に對する幾部の責任だ、多少の犧牲は拂はねばならぬと思ひ極めて歸朝したらしい、自分は先頃歸朝中革新劇第一、第二團とも幸に見物したから序を以て眼に映じた感想を書いて見よう、第一團は左團次、璃德、延三郎又五郎、壽美藏、宗之助等の舊俳優中の青年連を網羅し藝題は岡本綺堂氏作維新前後とて長州の奇兵隊と會津の白虎隊とを前後に分けたものであつたが奇兵隊の方があまり面白くなかつたのと大立物たる左團次が案外惡るかつたので第二團程評判が宜くない併し背景等は此方がズツト上であつた今度渡韓すると云ふ第二團は女優が勢力を占めて居る即ち大將が貞奴で、續いて花浦咲子、鈴木歌子、川上鏡子、宮下信子、茅野菊子等で男優の方では佐藤歲三、深澤恒雄山本嘉一、川上の弟同苗磯太、津坂幸一郎以下三十名許りである藝題は前が田口掬汀氏作日本の戀か益田太郎氏作喜劇啞の旅行で脚本に於て既に此方が成効して居る殊に二番の啞の旅行は貞奴の洋行土産とも言ふべく舞臺は倫敦を形取り深澤の扮せる双田宇助と云へる羅紗商が初めて倫敦に至り大失態を演ずるそれを伴つて居る山本嘉一の扮せる大野富三郎と云へる倫敦生活に馴れて居る紳士が大に氣を揉む處双田の田舍風に對し大野の極端なるハイカラの配合面白く女優に扮せる貞奴と倫優に扮せる川上磯太のダンスは十餘の舞隊に合はして見物を醉はしめ最後に日、英、獨、佛、露、米の六ケ國軍隊の分列式がある指揮官は何れも女優で引率せる四人宛の兵士が聯隊旗と銃を捧げて樂隊に合した歩調面白く分列式を終へ最後に貞奴の扮せる平和の女神が空天に顯はれると云ふ趣向で舞臺、小道具、扮裝等何れも悉く外國の者を寫して實に嶄新なる劇で至る處大好評を博して居る今度來れば即ち此の團体で藝題は三日間右の通りを演じて後三日は何か替はつた者を出し六日位で打上げるとのこと又男優の立物佐藤歲三は都合に依り一座を離れ其代りに京都明治座に多年本城を構へて居た静間小次郎が入座する由、兎に角誤魔化し芝居ばかり入替り立替り流れ込む韓半島の劇壇も是れに依つて一變遷を見るに至るであらふ（もの字）

●天氣豫報（自十八日午後六時至十九日午後六時）

北又は西の風晴

十八日午前六時各地氣象概況

昨朝支那東海にありし低氣壓は今朝日本海北部に去ると共に高氣壓黃海を蔽ひ北又は西風吹き氣溫一般に下降して晴天なり

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新聞社